

## 予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

<b>事業名</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新</span> ぎふ花と緑の振興促進事業費
--

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き係 電話番号：058-272-1111 (内 2866)

E-mail： c11423@pref.gifu.lg.jp

### 1 事業費 10,415 千円 (前年度予算額：0 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	10,415	0	0	0	0	0	0	0	10,415
決定額									

### 2 要求内容

#### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・令和2年度に国際園芸アカデミー有識者会議から、花と緑の産業を活性化させるために業界の壁を越えて産学金官が連携する「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」の設置について提言を受けた。
- ・令和3年度に、花きの利活用の促進と、消費者ニーズを捉えた花き商品の開発等を図るため、ぎふ花と緑の振興コンソーシアムを設立した。
- ・花きは産地による差別化が図りにくいため、コンソーシアム会員が連携した「ぎふオンリーワン」の商品づくりを進め、安定した花の需要を拡大する必要がある。

#### (2) 事業内容

##### ①ワーキンググループ設立支援

- ・生産者等が抱える課題の解決に向けた勉強会や視察研修等の活動支援

##### ②ワーキンググループ事業PR支援

- ・ワーキンググループから実用化できた商品・サービス等に対して、メディアを活用したPR等

### (3) 県負担・補助率の考え方

花き業界全体の活性化と県の花き生産の振興に取り組むために設立するワーキンググループ活動に対し、県が負担することが妥当である。

### (4) 類似事業の有無

岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム

岐阜県 IoT コンソーシアム

次世代エネルギー産業創出コンソーシアム

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	30	委員報酬
旅費	297	費用弁償、業務旅費
需用費	80	消耗品費
役務費	24	通信利用料
使用料	425	会議室使用料
委託料	9,559	WEB サイト作製費、広告費
合計	10,415	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

- ・ 県立国際園芸アカデミー有識者会議報告書 (令和3年度)
- ・ 清流の国ぎふ花き振興計画 (令和3年度～7年度)

### (2) 国・他県の状況

無

### (3) 後年度の財政負担

地方創生推進交付金を活用予定

### (4) 事業主体及びその妥当性

県内生産者等が異業種団体と連携し、花と緑の振興促進する取組みであり、県が負担することが妥当である。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

- |                                     |        |
|-------------------------------------|--------|
| <input checked="" type="checkbox"/> | 新規要求事業 |
| <input type="checkbox"/>            | 継続要求事業 |

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

- ・ 成功事例（モデル事業）を積み上げ、花き産業への横展開を図ることで、安定した花き需要の創出を図る。
- ・ 商品化により、新たな消費者層への需要拡大を図る。
- ・ 公共施設やまちづくり、日常生活における花きの活用を促進する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R2年度	R3年度	R4年度	終期目標	達成率
	(R)	実績	目標	目標	(R7)	
コンソーシアムによる連携開発事例				4事例	20事例	

### ○指標を設定することができない場合の理由

--

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
-	
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価)	
-	
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	
-	

### (今後の課題)

・ 県花き振興に向けた取組内容を、成果発表会を含め、どのように横展開し関心を高めるか。
---

### (次年度の方向性)

・ 安定した花の需要を拡大するためには初期投資を助成する必要がある。
------------------------------------